

家計におきかえること...

平成19年度決算を月々の家計におきかえてみます。「上天草家」夫婦、会社勤め・学生の子どもが一人ずつ、祖父母が別世帯で生活していると設定します。

上天草家の月々の家計の決算は、支出で1,577千円、その主な収入として、父親の給料(地方税)

23万9千円と、母親のパート収入と長男の収入(税外収入)14万4千円。でもそれだけでは足りませんので、祖父母から仕送り(地方交付税等)1,010千円をもらい、銀行(地方債の発行)から14万9千円借入れて、月々をしのいでいます。ただし、前年度から2万円父の給料(地方税)が

表4. 上天草家の歳出(実際の金額の10,000分の1) (単位:千円)

項目	食費	医療	返済	衣類	車検	交際	積立	学費	環境	合計
H19	348	228	276	113	4	205	13	188	202	1,577
H18	349	218	249	119	4	204	18	177	247	1,585

食費・光熱水費……………人件費
 医療……………扶助費
 ローン返済……………公債費
 衣類……………物件費
 車検……………維持補修費
 交際費……………補助費等
 積立金……………積立金
 学費……………繰出金、投資出資及び貸付金
 環境……………投資的経費

表5. 上天草家の歳入(実際の金額の10,000分の1) (単位:千円)

項目	給料	パート	預金引出	繰越金	仕送り	息子収入	ローン	合計
H19	239	87	30	50	1,010	57	149	1,622
H18	218	75	31	63	1,008	80	160	1,635

自主財源
 父の給料……………地方税
 母のパート……………分担金および負担金、使用料および手数料、財産収入、寄附金、諸収入
 預金引出……………繰入金
 前月繰越金……………繰越金

依存財源
 仕送り……………地方交付税、地方特例交付金、国支、県支出金
 息子収入……………地方譲与税、各種交付金
 ローン……………地方債

アップしたおかげで生活は若干ゆとりがでてきました。支出の内容においては、家庭では欠かせない食費・光熱水費(人件費)に34万8千円、病院代や親の介護費用(扶助費)に22万8千円、この病院代(扶助費)は、祖父母の高齢化により今後ますますかかりそうです。また、これまでの借金の返済(公債費)には27万6千円もかかっています。3万円は、負担を軽くするため繰り上げて支払っています。この3つの支出の計で約54%を占め苦しい台所事情であるのに一方では、父の交際費(補助費等)に前年度より1千円増額の20万5千円と給料(地方税)をほとんど使っているような状況です。さらには、自宅の環境をよくするため改修費(普通建設事業)を20万2千円使っています。集中的に投資することと一カ所ずつ片付けて行くことを考えています。しかし、子どもが大学生になったこともあり、学費(繰出金等)として、18万8千円と前年度より11万千円増額し家計を窮屈にしている一つの要因となっています。このような状況です。お金の(自主財源)32万6千円

表6. 平成18年度各会計の決算額 (単位:千円)

会計名	平成19年度決算		平成18年度決算		差額	
	歳入額	歳出額	歳入額	歳出額	歳入額	歳出額
一般会計	16,107,562	15,665,291	16,275,817	15,786,827	▲168,255	▲121,536
国民健康保険(事業勘定)	5,229,832	5,220,442	4,998,538	4,841,727	231,294	378,715
老人保健医療	5,608,312	5,608,312	5,629,652	5,642,237	▲21,340	▲33,925
診療所	66,062	64,200	58,011	55,715	8,051	8,485
国民健康保険(直営診療施設)	71,050	69,746	74,455	72,334	▲3,405	▲2,588
介護保険	2,992,435	2,808,824	2,889,030	2,714,766	103,405	94,058
斎場	13,195	10,686	14,449	12,257	▲1,254	▲1,571
天草四郎メモリアルホール	47,094	43,102	55,659	46,578	▲8,565	▲3,476
公共下水道事業	593,183	583,974	507,298	498,440	85,885	85,534
物揚場造成事業	16,938	16,707	16,709	16,708	229	▲1
地域開発事業	10,895	10,895	33,051	33,051	▲22,156	▲22,156
特別会計	14,648,996	14,436,888	14,276,852	13,933,813	372,144	503,075
上水道事業	916,807	899,145	785,479	763,724	131,328	135,421
病院事業	3,106,329	3,041,971	3,021,491	3,030,580	84,838	11,391
公営企業会計	4,023,136	3,941,116	3,806,970	3,794,304	216,166	146,812
合 計	34,779,694	34,043,295	34,359,639	33,514,944	420,055	528,351

※詳細については、予算書・決算書及び決算成果説明書が、各図書館においてありますので見てください。
 ※普通会計決算は、一般会計、診療所・斎場・天草四郎メモリアルホール特別会計の合算額になりますが、純計操作をしており単純に4会計の合算額ではありません。

では賄いきれず、祖父母の仕送りなど(依存財源)1,216千円がないと生活できない状況です。

家計を苦しめているローン現在高(地方債現在高)は、年々減少しているものの、274千円、父の月の給料のおおよそ10倍あり、これは、祖父母と同居するために家の増改築(国の景気対策等)をした時の「借り過ぎた借金」が一番の問題点となっています。

計画数値上回る好結果

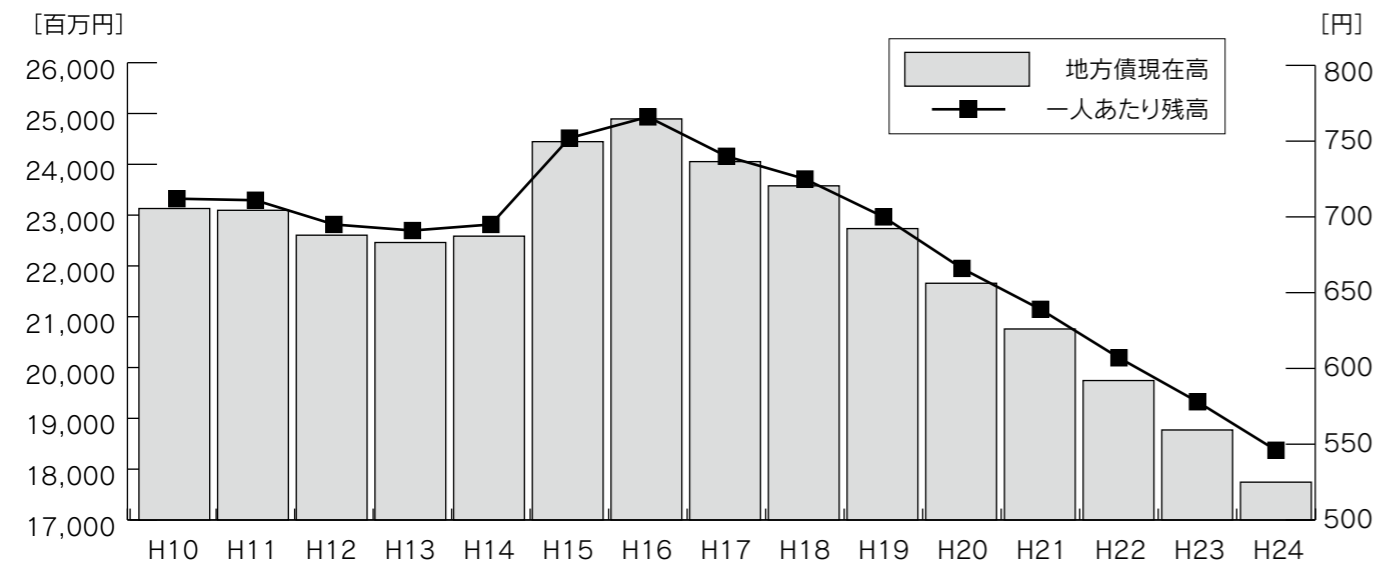
主な財政指標である表7を見ると、経常収支比率97.4%、実質公債費比率18.0%、自主財源比率20.1%とそれぞれ前年度より改善し、計画数値を上回る結果となっています。これは、効率的な執行に心がけた成果であり、リバイバルプランを遂行したことの実証でもありません。ただし、県内市の平均値と比較すると、経常収支比率で1.9%、実質公債費比率で2.9%上回っており、県内市平均値を早期に下回るよう努めます。

表7. 財政指標 (単位: %、百万円)

項目	自主財源比率(※4)	経常収支比率(※5)	実質公債費比率(※6)	地方債現在高	積立金減残高
H19決算	20.1	97.4	18.0	22,735	713
財政計画(比較)	18.9(1.2)	99.7(△2.3)	18.2(△0.2)	22,450(285)	763(△50)
H18決算(比較)	18.0(2.1)	99.3(△1.9)	18.9(△0.9)	23,576(△841)	652(61)
県内市平均値	-	95.5	15.1	-	-

※4 自主財源比率…市町村独自に調達しうる財源が歳入総額に占める割合を示す(「1」に近ければ近いほど財政力があることを示す)
 ※5 経常収支比率…財政の硬直性を示すものであり、高いほど臨時的な経費に対応できない柔軟性が欠ける状況を示す(適当と認められる数値、市町村75%、市80%)
 ※6 実質公債費比率…関係する全ての公債費の資金繰りが財政運営に及ぼす危険度を示す(地方債の許可基準18.0%で県内4団体のみ)

地方債現在高の推移



※ただし、平成19年度以降は推計

国の動向を踏まえた 地方財政の見通し

平成19年度決算は、リバイバルプランの遂行によって財政状況は好転し、今後の財政再建へ弾みがつく結果となっています。また、先月号に掲載した財政健全化判断比率および資金不足比率においても、いずれの指標も実質公債費比率が高率となっていますが、危険な数値でなく、危機的な状況から脱しつつあります。

しかし、国の地方財政対策の近況としては、「骨太の方針2007」の小泉政権閣議決定事項は依然として継続されており、平成21年度地方財政計画の仮試算と示された地方交付税は、3.9%の減となっています。さらに本市においては、平成26年度から普通交付税が段階的に減らされる激変緩和措置によって、13億円もの金額が平成31年度には減額となる予定です。

よって、リバイバルプランは、平成19年度から23年度までの5カ年計画であり、着実に「予算の質」の向上を目指して取り組んでいきますが、これは一つのステップであり、平成24年度以降も第二次リバイバルプランを策定し、手綱を緩めることなく行財政改革に努めていく必要があります。一刻でも財政基盤を確立したうえで、多様な市民ニーズに安定的な供給ができるよう努めますので、市民皆さまのご理解、ご協力よろしくお願いいたします。